

(様式2)

平成 23 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1591300056		
法人名	社会福祉法人吉田福祉会		
事業所名	グループホームさわらび		
所在地	新潟県燕市佐渡山4130-1		
自己評価作成日	平成23年11月15日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.n-kouhyou.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成23年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

サービス開始から4年目となり、開始当初からのご利用者も多く、長い時間を一緒に生活して来ていることもあり、気心の知れた親しい関係が出来ていると思います。ご利用者一人一人の個性を、職員はもちろんです。ご利用者も理解されており、個性に合ったコミュニケーションをとっております。ご利用者それぞれの良いところを引き出せるような支援を行っております。併設の小規模多機能センターのご利用者とも交流を図ることが出来、なじみのご利用者の来園日を楽しみにされている姿も見られます。グループホームと小規模多機能センターの空間を気ままに行き来することができ、すぐ隣に地域がある環境といえます。保育園、公民館、体育文化センターが隣接しており、保育園の園児や父兄・保育士の方々とは、さわらびで飼っている猫を介して、日常的に交流しております。公民館の行事にも積極的に参加しており、地域の方々とのふれあいの機会をもっております。また、季節感を感じることのできる公園とも隣接しており、静かで落ちついた環境の中、ゆったりと過ごしていただいております。
『ずっとここで暮らしたい。』と思ってもらえるようなケアを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は燕市郊外の田園地帯に、同法人が運営する小規模多機能センターを併設し、公民館と保育園を両隣にした環境の中に位置している。目の前は広い駐車場だが、近くには緑の多い公園があり、春には桜の花を楽しんだり、四季折々の田園風景を眺めながら過ごしている。
1ユニット6人の少人数で非常に家庭的な雰囲気であるが、小規模多機能センターとの併設を活かし、自由に往来することで、地域とのつながりが継続できている。両事業所で飼われている猫が出迎えてくれ、利用者にとっても動物とのふれあいが和やかな空間をつくっている。「焦らず」「急がず」「ゆっくり」との理念が、全職員で共有されており、日々のサービス提供の原点として暮らしの中で実践されている。
地域の中では行事に参加したり、隣接の公民館で催事がある時には出かけて行き、地域住民との交流の機会としている。文化際には、利用者が作った雑巾や、職員の作品を展示して、事業所での取り組みを発信している。
法人全体で人事考課制度の実施や、職員からの意見を直接「自己申告書」として吸い上げるなど、職員が意欲を持って働ける環境づくりと人材育成に取り組んでいる。
職員は、利用者の尊厳を尊重した中で、全職員が寄り添ったケアの実践を行い、自らが利用したい事業所づくりを目指して、一丸となって取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念は管理者と職員が一緒に作成し、事業所の目につく所数ヵ所に掲示し、常に意識できるよう努めている。</p>	<p>開設時に、管理者・職員で地域とのかかわりを大切にした中でのサービス提供を認識して理念を作り上げた。毎年度に見直しを行い、振り返りを行うと共に、日常の中で迷いの生じた事例があったときには理念に立ち返って方向性を確認するなど、全職員が拠り所としている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>住宅街から離れており、日常的な交流は多いとはいえないが、地域の行事や隣接する公民館で行事があるときには積極的に参加している。食材を地域の業者から購入することで、配達の際に交流を持つなどしている。</p>	<p>地域の敬老会への出席や祭り見学、隣接する公民館で文化祭等の催事があるときにはバザーを開催するなど、地域行事に参加している。しかし、集落から離れた場所に位置していることから地域住民との日常的な交流にはまだ至っていない。</p>	<p>利用者が地域の中で暮らしていくことを支援するためには、単発的な行事での関わりだけでなく、事業所自体が地域住民の一員として役割を担い、日常的な交流を行うことが大切である。保育園や公民館が隣接している優位性を活用しながら、更に職員でアイデアを出しながら取り組んでいくことを期待したい。</p>
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の行事の際に出掛け、日常実践している支援を自然な形で見ていただいている。また、公民館の玄関に法人の情報誌等を置いてもらったりしている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催し、その際に利用者の状況報告や困難事例の相談、法人からのお知らせや外部評価結果の報告等を行い、サービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議は、利用者・家族の代表者、市の福祉課職員2名、地域包括支援センター職員、自治会長をメンバーに、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で月2回開催している。会議は、事業所からの運営内容や利用者の状況報告が主ではあるが、外部評価の結果や取り組み状況についても検討し、サービスのあり方について意見をもらえる機会となっている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>市の介護保険担当者が運営推進会議の構成員であり、会議はもちろん日頃から連絡を取り合い協力関係を築いている。</p>	<p>市の介護保険担当者が運営推進会議のメンバーであることから、常に情報交換を行い、運営やサービス提供に対しても相談したり助言をもらえる関係性が築かれている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないためのマニュアルを作成しており、定期的に身体拘束に関する研修を行っている。身体拘束をしないケアを当たり前として取り組んでいる。	身体拘束については、年1回定期的に権利擁護と合わせた研修を開催している。全職員が利用者の自由な暮らしを支援するために、身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で定期的に虐待防止についての研修会を行い、関連法律などを学ぶ機会をもち、介護職員としての責務を周知している。また、適宜事例を通して、学ぶ機会をもっている。	全職員が「虐待防止関連法」について学ぶ機会をもち、具体的な行為についても事例を通して認識を深めている。日常のケアの中でも言葉かけ等に注意を払い、防止に取り組んでいる。管理者は職員の普段の状態を把握し、ストレスや悩みを抱えることがないように支援している。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	さわらび研修会において、包括支援センターの社会福祉士を招き、権利擁護に関する講義をしてもらい、知識の向上を図った。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、利用者及び家族に十分に説明し理解納得を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、ご利用者から出てくる意見や要望は大切に受け止め、可能な限り実践している。ご家族からも面会時等に話しやすいような雰囲気作りに努めている。が、ご家族からは年に1回文書で意見、要望を伺い、内容を検討し、運営に反映させている。	法人全体で利用者家族に対して、年1回「ご意見承り書」による意見・要望の取りまとめを行い、集約して公表する取り組みを実施している。事業所は内容について検討して、サービス提供に活かしている。また、日常的にも、利用者・家族が意見を言いやすいように、面会時等に声かけを行っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日の集礼などにおいて、職員から自由に意見や提案を出してもらう機会を作り、運営に反映させるよう努めている。年に1回、「自己申告書」を提出し、意見や要望が直接代表者に届く機会を設けている。必要に応じて、管理職層の会議で検討され、運営に反映されている。	職員会議の中で、サービス提供に関する意見や提案が積極的に出され、意見交換が行われている。また、毎日の集礼の中でも日々の取り組みについて意見交換がされている。法人としては、年1回「自己申告書」の提出によって職員の意見を聞き、検討して運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	人事考課制度を導入しており、客観的事実に基づき、本人の役割や勤務態度、仕事に取り組む姿勢等評価している。役割は考課者と被考課者が面接し決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の各専門部会の研修や外部研修を、本人の役割や経験を考慮して、できるだけ参加の機会を作っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の衛生委員会の主催する『交流会』に参加を勧め、他事業所職員の考え方や事業の進め方、ケアの取り組み等の情報や意見交換をする機会をもち、サービスの質の向上に努めている。また近隣のグループホーム連絡会にて交換研修や情報交換会を定期的に行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	こちらからの声かけをこまめに行い、本人からの相談や要望を出しやすい雰囲気作りに努めている。何か相談等聞かれた時には、思いを受け止めるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの相談や要望を出しやすい雰囲気作りに努めている。何か相談等が聞かれた時には、まず思いを受け止め、速やかに対応するよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や介護レベル、医療面の内容等を検討して、地域包括や事業所サービス、専門医の紹介など対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯、調理など、得意なこと・できることは一緒に行ってもらい、献立作りや調理にアドバイスをしてもらうこともある。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子を面会時に伝えたり、広報紙や写真と一緒に一言添えて郵送することもある。ケアについて家族に相談・協力してもらうこともある。面会時にはあまり介入し過ぎず、ご家族だけの時間を過ごしていただいている。	家族には「さわらび通信」と一緒に、事業所での暮らしぶりを一言添えて送付したり、面会時に日々の様子を伝えている。受診時には家族に健康状態を申し送り、主治医からの結果を報告してもらいながら、常に利用者の健康状態を共有している。面会時にはゆっくり過ごせるように配慮し、本人と家族との絆を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していた美容室へ出掛けてもらうなどなじみのある人や場所とのつながりを大切にしている。長寿祭りは各々の出身地区に参加している。	利用者がこれまで暮らしていた地域で開催される長寿祭(敬老会)に参加したり、地元の祭りを見学に行くなど、馴染みの場所に出かけている。また、利用者が希望すれば、これまで通っていた美容院の継続利用や知人の家に出かける支援を行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性や人間関係に配慮し、一緒に生活しているという関わりを持ってもらえるよう努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に応じ、継続的な関わりを持っていきたいと考えている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりの思いや意向を日々の関わりの中かで気付いた事などを持ち寄り、把握に努めている。困難な場合は、家族等から本人の人柄や性格、こだわりを聞きながら把握に努めている。	日常の中で、利用者に直接問いかけて希望や要望の引き出しを行い、家族の面会時には、本人の代弁者として意見をお聞きできるように取り組んでいる。また、センター方式のアセスメントシートを活用し、職員が気付いたことを書き加えながら、利用者の思いを把握し職員で共有している。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他の事業所を利用していた場合は担当ケアマネからと家人・本人の面談により情報の把握に努めている。また、実施にサービス利用中には関わりの中かで新たに発見した情報は記録し、以降のサービス提供の内容に盛り込むよう努めている。	入居前に自宅訪問を行い、これまでの生活歴や暮らしぶり、習慣等について利用者・家族から聞き取りを行っている。また、これまで利用していたサービス事業所からの情報を把握し、本人の理解に努めている。入居後も本人や家族からの情報を得て、より本人らしい暮らしの支援に取り組んでいる。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の能力を見つけ出し、介護計画の一部として本人のできる事支援計画として実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が望む事や意向を関わりの中で聞き出し、家族の思いや他の職員の意見などを求めながら担当職員が作成している。設定した期間を基本に見直しをしているが、本人の状態変化、家庭環境の変化、また新しい発見等により弾力的に計画を変更している。	入居当初は、事前情報や本人・家族の意向を把握して計画作成担当者が介護計画を作成し、その後は各利用者の担当職員が他の職員の意見を聞きながら作成し、モニタリングを行う仕組みが出来ている。介護計画は職員の気づきや本人の思いが反映されたものになっているが、担当者会議に家族の参加が少ない。	介護計画は的確に作成する仕組みがあるが、今後はさらに、本人主体であり、本人が地域との関係を継続しながら暮らしていくことを支援できる計画作成に向けて、家族や関係者の参加を得た担当者会議を開催して取り組むことを期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は事実やケアの気づきを具体的に記し、情報として共有し、見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している小規模多機能センターとの交流を活かし、職員・センター機能を共有し、柔軟な支援を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	両隣の保育所・体育文化センターとは、より良い関係を築いている。利用者の支援の一部に活かされている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは連絡を取り合っており、今までかかりつけ医がいなかった利用者については、紹介したりしながら適切な医療を受けられるよう支援している。	入居以前のかかりつけ医を希望する利用者には、継続した受診が出来るように支援している。近隣の内科医が月に1回往診に来てくれるほか、いつでも相談し、助言が得られる関係性が築かれている。また、法人の訪問看護ステーションの看護師が週1回バイタル測定を行い、必要に応じて主治医に報告するなどの連携が図られている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は法人の訪問看護ステーションに委託契約しており、健康管理に必要なアドバイスをもらっている。また、互いに情報を交換しながら利用者を支え合っている。訪問看護師とはノートを活用し、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は介護支援専門員を通して病院の相談員と連携をとっている。また、職員ができるだけ入院先に訪問し、本人の状態や家族・看護師からの情報を収集している。本人にグループホームに速く戻れるよう励ましたり、仲間の事を伝え退院の意欲を高めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	食事の摂取状況や体調の変化等、いつもと違う様子に気づいた時には、スタッフ間での情報交換し、必要に応じて速やかにかかりつけ医・家族への相談を行い、事業所でする事を伝えながら、本人の思いも大切に、支援を行っている。	事業所としての重度化や終末期に向けた方針は明確化されており、利用契約時に文書で家族に示している。利用者の体調管理には日頃から十分注意しており、状態変化があった時には早い時期に話し合いを行い、希望に応じて、主治医・看護師・家族・職員がチームを組んで支援する体制を整えている。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員救命講習を定期的を受けている。また、事業所内では、急変時対応や対応や事故発生時の対応はマニュアル化されており、定期的に研修を行っている。	全職員が救急救命講習に毎年参加しているほか、事業所においても、年度初めに看護師を講師に緊急手当や初期対応について具体的な場面を設定した訓練を行っている。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画(災害計画)に従い、避難訓練(夜間想定・日中)や点検を定期的に行っている。避難訓練は利用者にも参加していただき実施している。地域との協力体制づくりは課題である。	防災訓練は年に2回、夜間を想定した訓練も含めて計画通りに実施している。しかし、地域での防災訓練への参加や、有事の時への地域からの協力体制づくりについては、まだ取り組みに至っていない状況にある。	災害は、火災に加えて地震、水害、大雪など、様々な災害が想定され、いかなる場合においても、利用者の安全を確保するためには、地域の協力が欠かせない。日頃から、地域や警察・消防署等と連携を図りながら、協力体制を築き、また、備蓄品や停電に対応した備品の確保にも取り組んでいくように期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ入室する時、衣類の用意をする時など、本人の承諾を得ている。一人ひとりの人格を尊重し、一人ひとりに掛ける言葉を工夫している。	職員は権利擁護について学び、日頃から利用者一人ひとりの習慣や思いを把握して、人格を尊重したサービス提供をしている。日常の中で、居室へ入室する際の声かけ、トイレ誘導の方法、馴れ合い的な言葉使いは行わない等、統一した対応が実践されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を表現しやすいような雰囲気を作るよう努めている。自分で決めたり納得しながら暮らす事ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や興味に合わせて、散歩・編み物・料理・ゲーム等希望に沿って支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は入所前から利用していたなじみの店に出かけている。着替えの服は本人と一緒に選び、好みのものを身につけてもらっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を決めたり、食材を選んだりも一緒に行ってもらっている。調理の下ごしらえ、後片付けもいつも一緒に行ってもらっている。	献立は利用者の食べたい物を聞きながらその都度決めている。食材選びや買物も利用者と一緒にしている。季節によっては、利用者が作った野菜が食卓に彩りを添えることもあり、利用者の意欲につながっている。また、おはぎや季節折々の行事食を作ったり、時には皆で出前も楽しんでいる。利用者は能力に応じて、準備や片付けに参加している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の観察を行い、必要時補食を用意している。また、献立は法人の管理栄養士から定期的に確認しアドバイスももらっている。個々に合わせた提供形態や塩分制限等の配慮を行い、栄養をしっかりと摂ってもらえるよう努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行っている。必要時法人の歯科衛生士からの助言を基に、その人に合った口腔ケアをしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できる方には出来る限りトイレでの排泄を継続してもらっている。尿意・便意がはっきり認識できない方には、日々の関わりの中で排泄のサインを見つけ出し、不快な思いをさせないように早めに対応している。	利用者一人ひとりの機能を評価して、適切な排泄用品を使用している。また、排泄パターンを把握して、排泄のサインを見逃さないほか、時間誘導をするなど、出来るだけトイレで排泄できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	料理に繊維質含む食材を使用するよう意識している。また、定期的に乳酸菌飲料を提供している。また、重度の便秘の方には排便状況をチェックし、下剤の加減を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	小規模多機能センターとの併設の為、入浴設備も共有しており、家庭浴槽でないため一緒に入浴している。その為、曜日や時間はある程度きめさせてはいたが、その日の本人の体調や希望などにより柔軟に対応している。	元々デイサービス用に作られた浴室だったが、平成23年10月に改装して家庭浴槽を設置した。併設の小規模多機能事業所との共有であるため、おおよその入浴日は設定しているが、利用者の希望や状況により柔軟に対応している。ゆず湯などの変わり湯をしたり入浴剤を使用するなど入浴を楽しめるよう工夫している。また、近くの足湯に出かけることもある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれの生活習慣を尊重し、自由に過ごしていただいている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬情報をファイル化しており、職員はいつでも確認できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自のできる事を見つけ出し、介護計画に反映し、それに基づいて支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日、戸外で行事がある時は外出支援を行っている。季節を感じてもらえるような車での外出は随時行っている。また、気候の良い季節は日常的に前の公園へ散歩に出かけている。	隣接の公民館には行事があるごとに出かけている。天気の良いときには事業所前の公園で過ごすことも多い。近隣に商店がなく、買物には車で出かけているが、出かけた際にアイスクリームを食べたりと、楽しみが得られるように支援している。利用者の意向を聞きながら、ブドウ狩りや菊祭り、足湯などにも出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の嗜好品の購入やお祭り、行事で外出した際に、本人にお金を所持してもらい、買い物を楽しんでいただく機会をもっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から要望があるときや、不安感がある時に電話の使用の支援を行っている。手紙は要望があれば、いつでも支援できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	あまり雑然とならないように生活感と季節感のある温かい空間づくりに気を配っている。	共用空間は非常に家庭的な雰囲気、温かみのある造りである。適所に手すりを設置するとともに、食堂の椅子の高さを座布団で調整するなど、利用者にとって安全で使いやすい環境となるよう配慮している。座り心地のよいソファを置いたり、ウッドデッキを設け、利用者が好きな場所でゆっくり過ごせるよう居場所作りをしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	併設している小規模多機能センターフロアで昔馴染みの仲間と自由にお茶を飲みながら談話できるようにしている。今後、ソファを置いたり、より居心地の良い環境づくりをしていく予定。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全居室フローリングであるが、本人の様態や在宅での様子も踏まえ、たたみを用意したり、使用していた家財道具を持ち込んでもらい、できるだけ在宅時の生活の継続ができ、居心地が良くなるよう支援している。	利用者がこれまで使っていた、使い慣れた家具がもち込まれていたり、希望によっては畳みの部屋で過ごすことが支援されている。	利用者の希望や家族の状況、また、日中はほとんど共用空間に集って過ごしていることもあるが、利用者一人ひとりにとって安心して過ごせる居室空間作りとしてはさらなる取り組みを期待したい。本人の思いやこれまでの暮らしなどを理解しながらより一層の工夫を望みたい。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアには大きめの字で表札がかかっており、トイレ・浴室など大きな字やマークで示している。		